

令和5年度 シラバス

科目名		単位数	標準単位数	対象学科・コース・類型・系列	対象学年・組	必修・選択	使用する教科書				
建築設計製図		2	2～8	建築科	1年3組	必修	実教出版「建築設計製図」				
特記事項	1年次に2単位、3年次に3単位、合計5単位修得予定										
科目目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築分野に必要な資質・能力を次の通り育成することを旨とする。</p> <p>(1) 建築分野に関する製図について、日本産業規格および国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 各種設計図に関する課題を発見し、建築に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 建築分野における各種図面の作成と図面から施工情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び工業の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。</p>										
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現			主体的に取り組む態度					
	建築分野に関する製図について、日本産業規格および国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		各種設計図に関する課題を発見し、建築に携わる者として科学的な根拠に基づき、工業技術の進展に対応し解決しようと取り組んでいる。			建築分野における各種図面の作成および図面から施工情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協動的に取り組んでいる。					
年間指導計画表											
月	予定 時数	実施 時数	学習項目	学習内容(教科書)	評価の観点			評価規準・評価方法			振り返り
					知	思	態	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
4	8		(1) 製図の役割 ア製図と規格	製図の基本 課題1「線の練習」	○	○	○	製図道具の基本的な使い方を覚えている 製図の基本である「線の引き方」を習得している	習得した技能を使って、各線種を表現することが出来る	課題を丁寧に仕上げようと努力している	
5	8		イ図面の表し方	課題2「文字の練習」	○	○	○	製図に使用する文字はJIS規格で定められていることを理解している	文字の高さを決め、上下に補助線を引いて丁寧に書こうと工夫している	補助線に沿って丁寧に書こうと努力している	
6 7	10	課題3「平面表示記号」		○	○	○	平面図で表現する建具や材料など、あらかじめ決められた規則にしたがった記号で表すことを理解している	記号を正確に表現するためにはどうすれば良いか考えることが出来る	細かい表現も省略せずに、最後まで丁寧に仕上げようとしている		
9	10	(2) 建築に関する 設計製図		木構造の設計製図 平屋建専用住宅 課題4「平面図」	○	○	○	一般的な木構造の住宅設計の平面図に必要な知識を習得している	「製図の基本」で学んだ技術を、課題3「平面図」で表現できる	「平面図」の作図手順に従って、図面を丁寧に仕上げようと努力している	
10	8		課題5「立面図」 課題6「断面図」	○	○	○	地面(GL)と建築物の床、天井、屋根との一般的な高さ寸法を理解している	建築物を立体的に捉え、視点を変えたとどのように見えるのか想像することが出来る	「立面図」「断面図」の作図手順に従って、図面を丁寧に仕上げようと努力している		
11 12	10		課題7「基礎断面詳細図」 課題8「屋根断面詳細図」	○	○	○	配筋や捨てコンクリート、砂利敷きの表現を習得している 小屋組の部材相互の関係を理解している	各部材の寸法や重なり方をよく観察し、図面に表現することが出来る	「断面詳細図」の作図手順に従って、図面を丁寧に仕上げようと努力している		
12 1	8		鉄筋コンクリート構造の設計製図 鉄筋コンクリート構造の設計手順と基礎知識 課題9 住宅の設計製図 「家族の要望・設計条件」	○	○	○	鉄筋コンクリート構造の建築物、設計順序、設計方法を理解している	「建築計画」や「建築構造」で学んだ知識を住宅設計に活かそうと考えている	設定した家族の要望をかなえようと創意工夫をこらそうとしている		
2 3	8		課題10「ブロックプラン」	○	○	○	用途や機能別に空間を分類し、快適な住空間を設計するためのポイントを理解している	さまざまな空間の組み合わせ(レイアウト)を試行錯誤して、良いものにしようと考えている	既存の建築物の資料を積極的に収集している		

令和5年度 シラバス

科目名	単位数	標準単位数	対象学科・コース・類型・系列	対象学年・組	必修・選択	使用する教科書
工業情報数理	2	2~4	建築科	1年3組	必修	実教出版「精選工業情報数理」
特記事項	科目「情報I」を当科目に代替するため「(2)コミュニケーションと情報デザイン」についても取り扱うこととする。					
科目目標	(1) 工業の各分野における情報技術の進展と情報の進展と情報の意義や役割及び数値処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。【知識及び技術】 (2) 情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。【思考力・判断力・表現力】 (3) 工業の各分野において情報技術及び情報手段や数値処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。【学びに向かう力】					
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度	
	情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解し、情報技術を利用した情報の収集・処理・活用のために必要な技能を身につけている。		諸問題の解決をめざしてみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身につけており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。		情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけている。	

年間学習計画表

月	予定時数	実施時数	学習項目	学習内容(教科書)	評価の観点			評価規準・評価方法			振り返り
					知	思	態	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
4 5 6	6	8	ア 情報モラル	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報などのデータの取扱い、プライバシーを保護する観点から取り上げ、工業に携わる者としての情報に対するルールやモラルまた、著作権などの知的財産の制度や保護についても学習する。(精選工業情報数理P20~23) 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器やSNSなどの利点や欠点、危険性、正しい取扱いについて理解し、自分たちがすべきことについてまとめることができる。 知的財産権について理解している。 情報化社会が進展するにつれ、守らなければならないマナーやモラルが重要であることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器やSNSなどのサービスを取り扱ううえでの社会人としてのルール、モラルやマナーなどについて、具体的に考え、お互いの意見を述べたり発表したりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産権・プライバシーの保護・コンピュータの不正利用対策・コンピュータウイルス、および、それらの対策などに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。 	※年度末のPDCAサイクルのための点検記入欄
			イ 情報のセキュリティ管理	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータの不正使用、コンピュータウイルスなど取り上げ、その対応策としてデータの暗号化技術、電子認証技術、コンピュータウイルスなどの対策ソフトウェアの活用などについて学習する。(精選工業情報数理P24~28) コンピュータの誤作動や障害が産業社会に与える影響とその対応策について学習する。(精選工業情報数理P28~29) 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 情報の不正利用防止やセキュリティ対策について理解している。 データの暗号化技術および認証システムなどについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータの不正利用防止のために、それらの実態を知り技術的な対応方法が必要であることが考察し発表できる。 問題の発見・解決に向けて具体的に考え、お互いの意見を述べたり発表したりできる。 情報の適切な収集・分析・整理に関して思考・判断でき、自分の考えを表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータウイルス対策や情報の不正利用防止のための基本的な技術に関心をもち、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。 	
			ウ コンピュータシステムハードウェア	<ul style="list-style-type: none"> データの内部表現及び論理代数、論理回路、中央処理装置、周辺装置などを取り上げ、コンピュータのハードウェアの種類と役割について学習する。(精選工業情報数理P133~158) 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 処理装置や周辺装置の基本的な知識を身につけている。 コンピュータに周辺装置を適切に接続する技能を習得している。 2進数と16進数について理解し、四則計算や変換計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータにおけるハードウェアの役割としくみを理解し、説明できる。 利用目的に応じた適切な周辺装置を選択し、提案できる。 10進数の構成から、2進数と16進数の構成が類推し発表できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 処理装置と周辺装置に関心がある。そして、上記の事項について意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。 2進数、10進数、16進数などに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。 	
7 9 10 11	6	6	エ ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> オペレーティングシステムやアプリケーションソフトウェアの種類と役割などを取り上げ、ソフトウェア開発の手順について学習する。(精選工業情報数理P37~76) 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> マウス・タッチスクリーン・キーボードを扱う技能を習得している。 記憶装置を扱う技能を習得している。 アプリケーションソフトウェアの特徴の違いや機能について理解している。 アプリケーションソフトウェアに共通する基本的な操作などの技能を習得している。 	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーションソフトウェアの中から必要なソフトウェアを選択することについて思考・判断でき、自分の考えを表現できる。 アプリケーションソフトウェアを活用して情報をデザインし表現できる。 Webブラウザ、日本語ワードプロセッサソフトウェア、表計算ソフトウェア、プレゼンテーション支援ソフトウェアなどに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータの起動・終了、マウス・タッチスクリーン・キーボードの基本操作、記憶装置の取扱いなどに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。 Webブラウザ、日本語ワードプロセッサソフトウェア、表計算ソフトウェア、プレゼンテーション支援ソフトウェアなどに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。 	
			ウ 情報通信ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信ネットワークにおいて使用されている通信ケーブル、ハブなどの通信機器、配線形態、各種の伝送制御手順、プロトコル、停電や雷に対する安全対策などを取り上げ、データ通信とネットワークについて学習する。(精選工業情報数理P159~172) 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> データ通信システムと情報通信ネットワークの概要について理解している。 LANの基本構成について理解し、簡単な接続ができる。 無線を利用した機器について理解している。 停電対策や雷対策について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータ室のネットワークについて、使用されている機器を判断して、構成を説明できる。 家庭のインターネット接続について適切な方式を選択し提案できる。 家庭のインターネット接続やコンピュータ室のネットワークに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> データ通信の概要とネットワークの概要について関心をもち、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。 	
			ア アルゴリズムとプログラミング	<ul style="list-style-type: none"> プログラム言語の種類について理解させる。 問題解決の手段としてのアルゴリズムとプログラムの作成の意味を理解させる。 順次・選択・繰返しの中の基本的な流れ図と構造化プログラミングの意義について理解させる。 簡単なプログラムによっての特徴を理解させる。(精選工業情報数理P77~92) 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 機械語、アセンブラ言語、高水準言語について理解している。 基本的なアルゴリズムを組み合わせて応用的なアルゴリズムを作成する知識を身につけている。 基本的なプログラムを作成し、実行する技能を習得している。 アルゴリズムと流れ図について理解し、これらを活用する技能を習得している。 	<ul style="list-style-type: none"> 機械語、アセンブラ言語、高水準言語の用途を判断し、適切な言語を選択できる。 インタプリタとコンパイラの違いを理解し、用途を考察できる。 最適なプログラムを記述するために必要なアルゴリズムを考えて流れ図として表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 用途に応じたプログラム言語の違いや、プログラムのつくり方に関心をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。 問題解決の処理手順であるアルゴリズムと、アルゴリズムを実現するための流れ図を描くことに興味をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。 	

令和5年度 シラバス

科目名	単位数	標準単位数	対象学科・コース・類型・系列	対象学年・組	必修・選択	使用する教科書
建築構造	2	2~6	建築科	1年3組	必修	実教出版「建築構造」
特記事項	※標準単位数を下回る場合の理由とその対応策等、必要に応じて記載する欄とする					
科目目標	(1) 建築物の構造について荷重に対する安全性や材料の特性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。【知識及び技術】 (2) 建築物の構造や建築材料に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。【思考力・判断力・表現力】 (3) 安全で安心な建築物の構造を実現する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】					
評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現		主体的に取り組む態度		
	建築物の構造や建築材料に関する基礎的な知識の習得をもとに、建築に関わる諸事項を合理的かつ的確に遂行する技術や技能を身に付け、環境への配慮を心がけたうえで活用することを理解している。	建築物の構造や建築材料に関する基礎的な知識や技能の習得をもとに、建築物の設計や施工をするときに生じる諸問題の解決を目指して自ら思考し、判断し創意工夫する能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。		建築物の構造や建築材料に関心を持ち、これらに関する基礎的な知識や技能の習得に粘り強く取り組むとともに、学習状況を把握し、自ら立てた学習計画により取り組もうとしている。		

年間学習計画表

月	予定時数	実施時数	学習項目	学習内容(教科書)	評価の観点			評価規準・評価方法			振り返り
					知	思	態	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
4	8		1 建築構造の歴史的発達	・建築構造の歴史的発達を社会情勢や科学技術の進歩、発展などについて学習する。 ・建築物はどのような部分からなりたっているか理解できるように学習する。 ・躯体に用いる材料、つくり方、形による分類について学習する。	○	○		・建築構造の歴史的発達、なりたち、分類、建築物に働く力、関連する法規や規準に関する基礎的な知識を身に付け、身近な建築物や歴史的建築物が関わる社会的環境や意義について理解している。	建築物の構造や建築材料に関する基礎的な知識や技能の習得をもとに、建築物の設計や施工をするときに生じる諸問題の解決を目指して自ら思考し、判断し創意工夫する能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。	建築物の構造や建築材料に関心を持ち、これらに関する基礎的な知識や技能の習得に粘り強く取り組むとともに、学習状況を把握し、自ら立てた学習計画により取り組もうとしている。	
			2 建築構造のなりたち	・建築物に作用する外力の種類、外力により生じる力の種類について学習する。また、建築物に与える自然災害の影響について理解させ、防災意識の高揚をはかる。	○						
			3 建築構造の分類	・建築材料の規格、建築物を設計施工するための法規や規準について概要を把握させるように学習する。(建築構造 p4~16)	○	○					
			4 建築物に働く力		○	○					
			5 関連する法規と規準		○	○					
5 6 7	18		第2章 木構造 1 構造の特徴と構造形式	木構造の一般的な特徴を把握させ、現在用いられている構造形式の種類と特徴の概要を理解する。	○	○		構造形式や構成部材、および木構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識を習得し、技術や技能を身に付け、活用することを理解している。	構造形式や構成部材、および木構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識をもとに、建築材料を適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。	構造形式や構成部材、および木構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識や技能に関心を持ち、これらの習得に向けて粘り強く取り組もうとしている。	
			2 木材	・建築用木材の種類と特徴、木材一般の性質、合板など木質材料の特性について学習する。	○		○	・建築用木材の種類と特徴、木材一般の性質、合板など木質材料の特性について基礎的な知識を習得し、技術や技能を身に付けている。	・木質材料の特性の知識、技能を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。	・建築材料に関する基礎的な知識や技能に関心を持ち、これらの習得に向けて粘り強く取り組もうとしている。	
			3 木材の接合	・継手や仕口の種類と使用箇所、接合部に用いられる金物の種類と使用箇所、接合の注意点について学習する。	○		○	・継手や仕口の種類と使用箇所、接合部に用いられる金物の種類などの知識を習得し、技術や技能を身に付けている。	・継手や仕口の種類と使用箇所、接合部に用いられる金物の種類の知識、技能を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。	・継手や仕口の種類と使用箇所、接合部に用いられる金物の種類などに関する基礎的な知識や技能に関心を持ち、これらの習得に向けて粘り強く取り組もうとしている。	
			4 基礎	・地盤の種類や強さと関連させて、基礎の形式、設計上の注意点について学習する。	○	○	○	・地盤の種類や強さと関連させて、基礎の形式などの知識を習得し、技術や技能を身に付けている。	・地盤の種類や強さと関連させて、基礎の形式などの知識、技能を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。	・地盤の種類や強さと関連させて、基礎の形式などに関する基礎的な知識や技能に関心を持ち、これらの習得に向けて粘り強く取り組もうとしている。	
			5 軸組 (1 軸組のあらまし~7 間柱・貫)	・軸組構成の概要を把握させ、土台・柱・胴差の配置、および、それぞれの部材の接合方法、慣用的な断面寸法、使用材料について学習する。	○	○	○	・軸組構成の概要を把握させ、土台・柱・胴差の配置などの知識を習得し、技術や技能を身に付けている。	・軸組構成の概要を把握させ、土台・柱・胴差の配置などの知識、技能を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。	・軸組構成の概要を把握させ、土台・柱・胴差の配置などに関する基礎的な知識や技能に関心を持ち、これらの習得に向けて粘り強く取り組もうとしている。	
			5 軸組 (8 耐震・耐風計画)	・耐震・耐風計画の要点と手法や耐震補強の必要性、方法の学習をする。(建築構造 p22~55)	○	○	○	・耐震・耐風計画の要点と手法や耐震補強の必要性、方法などの知識を習得し、技術や技能を身に付けている。	・耐震・耐風計画の要点と手法や耐震補強の必要性、方法などの知識、技能を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。	・耐震・耐風計画の要点と手法や耐震補強の必要性、方法などに関する基礎的な知識や技能に関心を持ち、これらの習得に向けて粘り強く取り組もうとしている。	

令和4年度 年間指導計画書（記載参考例）

学校名		課程	校長名	教頭名		担当者名					
県立〇〇工業高等学校		全日制	●● ●● 印	〇〇 〇〇 印	●● ●● 印	〇〇 〇〇 印					
科目名	単位数	標準単位数	対象学科・コース・類型・系列	対象学年・組	必修・選択	使用する教科書					
機械工作	2	4～8	機械科	1年1組	必修	実教出版「機械工作Ⅰ・Ⅱ」					
特記事項	※標準単位数を下回る場合の理由等を記載する 【例】指導項目(3)各種の工作法、(4)工業量の測定と計測機器については、1・2年の実習で実践を交えて詳しく学習する。 そのため、科目「機械工作」においては基本的な事項の学習にとどめるため、2単位での設定となるが科目の目標は達成できる。										
科目目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、機械材料の加工や工作に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 機械工作について機械材料の加工性や工作法を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。【知識及び技術】 (2) 機械工作に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。【思考力・判断力・表現力】 (3) 工業生産における適切な機械材料の加工や工作する力の向上を目指して自ら学び、情報技術や環境技術を活用した製造に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。【学びに向かう力、人間性等】										
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度						
	機械工作について機械材料の加工性や工作法を踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。		機械工作に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。		工業生産における適切な機械材料の加工や工作する力の向上を目指して自ら学び、情報技術や環境技術を活用した製造に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。						
年間指導計画表											
月	予定時数	実施時数	指導項目	指導内容（教科書）	評価の観点			評価規準・評価方法			振り返り
					知	思	態	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
4	3	4	(1) 機械工作法の発達	・機械材料、工作機械及び工作法が相互に関連して発達してきたことについて指導する ・産業社会と機械の発達との関係について指導する（機械工作Ⅰ P5～10、機械工作Ⅱ P205～209）	○		○	・機械工作法の発達について産業社会と機械工作法の変換とを踏まえて理解している。	・産業社会と環境や資源・エネルギーに配慮した機械材料、工作機械及び工作法が相互に関連して発達してきたことに着目して、機械工作法の発達に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。	・機械工作法の発達について自ら学び、機械材料や工作法の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・産業社会と機械工作法の発達や環境等への配慮を理解させるには教科書による説明だけでは足りず、WEB上の様々なコンテンツを活用することにより、理解が深まった。そのため4時間の実施となった
			(2) 機械材料 ア 機械材料の加工性と活用 イ 新素材の加工性と活用	・炭素鋼、合金鋼、鋳鉄、非鉄金属などを取り上げ、金属材料の機械的性質や加工性について指導する（機械工作Ⅰ P50～121） ・炭素鋼の二元合金の状態変化を取り上げ、合金の状態変化について指導する（機械工作Ⅰ P64～66、P95～101） ・焼き入れ、焼き戻しなどを取り上げ、熱処理について指導する（機械工作Ⅰ P87～93） ・ナノ素材や高分子材料などを取り上げ、新素材の機械的性質や加工性について金属材料と比較して指導する（機械工作Ⅰ P122～139）							
			(3) 各種の工作法	・鋳造、溶接、塑性、切削、研削、鍛造などを取り上げ、工作法の原理と方法及びその発展の動向を、生産の自動化や省力化などと関連づけて指導する（機械工作Ⅰ P142～232） （機械工作Ⅱ P8～82、P199～200） ・レーザー加工、放電加工、液体ジェット加工、超音波加工、多軸数値制御工作機械などを取り上げ、技術の進展に対応した工作法の原理と方法を関連付けて指導する（機械工作Ⅱ P86～146） ・工作物の製作過程に着目するとともに、ジグや取付具の構成とその用途について指導する（機械工作Ⅱ P197～199）							
			(4) 工業量の測定と計測機器 ア 工業量の測定 イ 計測機器の活用	・工業生産における計測の影響や果たす役割について取り上げ、測定の意味及び精度と誤差について指導する ・マイクロメータなどの計測機器の原理について指導する ・表面荒さ測定器や三次元測定器などの計測機器の機能及び操作について指導する（機械工作Ⅰ P12～46）							
			(5) 生産の管理 ア 生産計画と管理 イ 情報技術による生産のシステム化	・生産計画、工程管理、品質管理、資材と機械・工具の管理、原価管理及び安全管理を相互に関連付けて指導する（機械工作Ⅱ P150～185） ・労働災害の予防、安全対策について取り上げ、安全管理の目的、災害の種類、災害の防止や安全管理組織を相互に関連付けて指導する（機械工作Ⅱ P186～195） ・生産システムの管理技術について情報化やグローバル化と関連付けて指導する（機械工作Ⅱ P162～167）							
計											

学習指導要領の科目目標を転記

学習指導要領の指導項目を記載

学習指導要領工業解説を参考に、生徒や地域の実態、学科の特色等に応じて適切に設定すること

P D C A サイクルによる授業改善を図るため1年の振り返りコメントを記入